



「西原小学校前の横断歩道橋」(西原1丁目)

昔 昭和43年4月



今



大隅半島で初めて架けられた横断歩道橋。写真は昭和43年4月6日の渡り初めの様子です。歩道橋下の道路は、当時から交通量が激しかった道路で、鹿屋バイパスができる平成4年3月まではこの道路が国道220号でした。周辺は様変わりし、今では歩道橋の下からでも、西原小学校の立派な校舎が見えます。



20代前半で従軍した為吉は91歳まで生きた。墓には宝永元年(1704年)とある。

7月、国連教育科学文化機関(ユネスコ)の第42回世界遺産委員会は、「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」を世界遺産に登録しました。関連遺産の一つ、「原城跡」(長崎県南島原市)は、寛永14〜15年(1637〜1638年)に起きた「島原の乱」の舞台となった地です。「島原の乱」は、肥前国島原と肥後国天草で、圧政やキリシタン迫害に反発した領民が起こした日本史上最大規模の一揆。「乱」の発生を知った江戸幕府は、九州諸藩を中心とした討伐軍を編成し、一揆軍と戦闘を交えました。

この幕府軍には薩摩藩からも多くの人が従軍しており、始良外城(現・吾平町)からも、16人の衆中(郷士)が参加したとの記録が残っています。16人は8人ずつ二手に分かれて現地入りし参戦。松山助右衛門尉為吉らのグループは原城陥落後に一揆軍の山狩りを行ったのち、三角ノ瀬戸(熊本県南西部の海峡)から米ノ津(出水市)に渡り帰郷しました。為吉は同郷の戦死者の遺髪と刀を持ち帰り、遺族に届けたと伝えられています。のちに為吉は、現在も吾平に残る東・中・西の各用水路を引く大事業を敢行。新田開きの功労者として後世に名を残しています。

なお幕府軍には、市成から少なくとも75人、百引から20人が参加したことや、大始良から従軍した池田右近という郷士が戦功を上げたという記録も残っています。



のちに為吉が実施した「始良三新田溝」事業。写真は現在の中用水路。

幕府軍として「島原の乱」へ

カノヤタイムトラベル

昔、鹿屋で起きた出来事にクローズアップ!